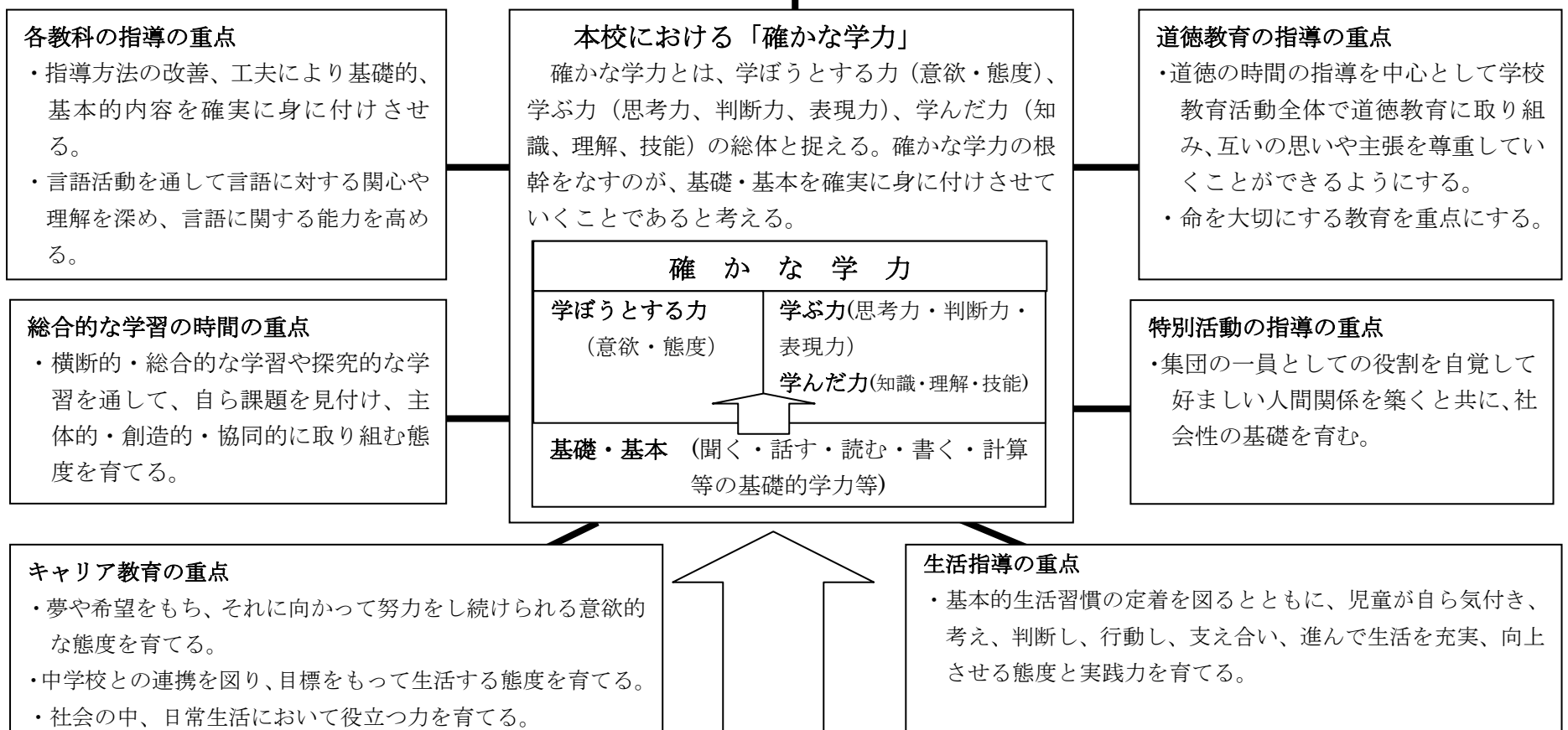
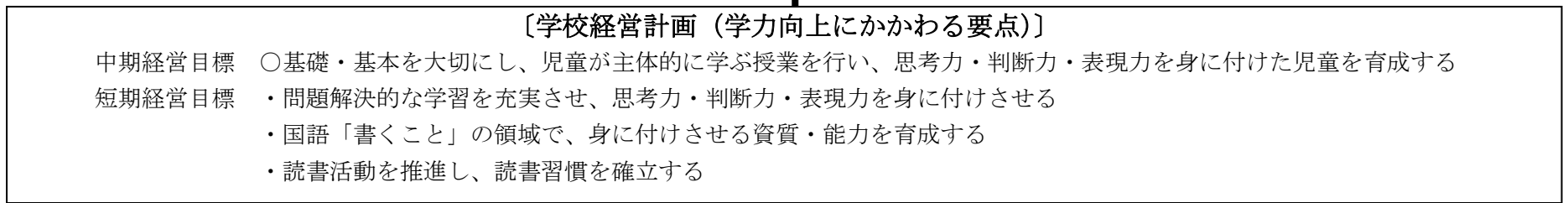
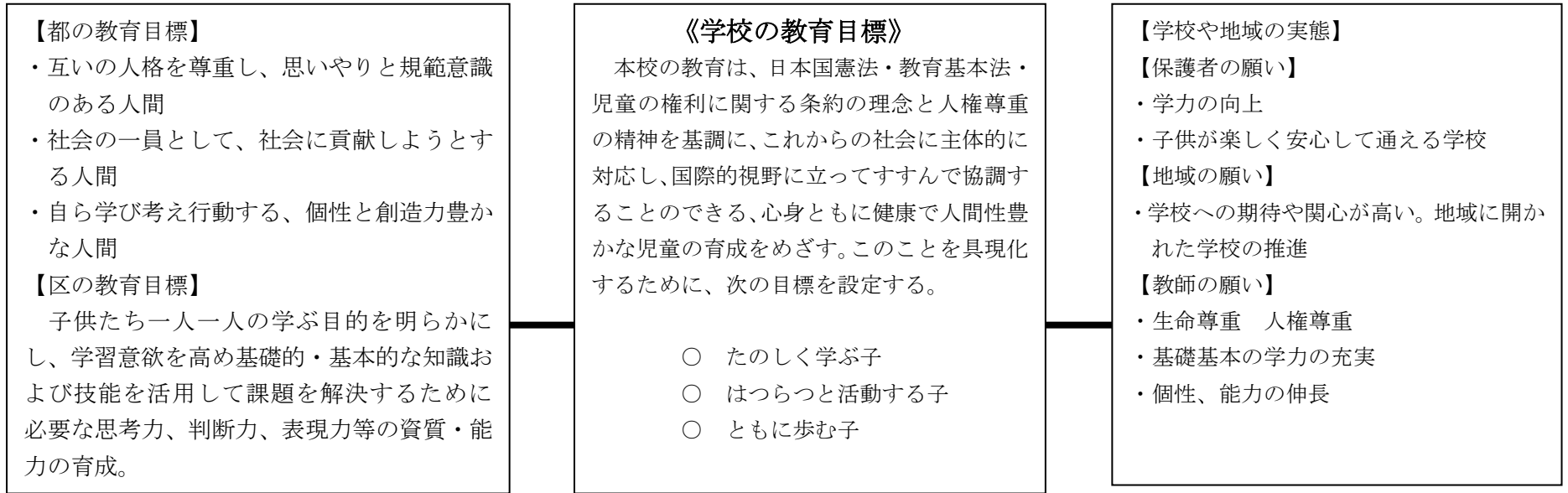


平成30年度 学力向上を図るための全体計画



本校の改善策		
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫
<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決、体験活動を取り入れた学習の重視。</li> <li>・課題解決、習熟度別学習を取り入れたティームティーチング、少人数指導の推進。</li> <li>・自力解決学習と学習感想の重視。</li> <li>・各教科における言語活動の重視。</li> <li>・東京ミニマムの活用。</li> <li>・東京ベーシックドリルの活用。</li> <li>・ICT機器の活用。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年での国語「書くこと」における研究授業の確保。</li> <li>・朝読書、保護者・教員による読み聞かせ、お話の会によるストーリーテリング、図書館員によるブックトーク等の多様な読書活動の実践。</li> <li>・週に一度、朝15分間の基礎学習の実践。</li> <li>・学期1回のいじめなくそうアンケートの実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年7回の授業研究を通しての授業力の向上。</li> <li>・キャリアプラン等に基づく自主的・自発的研修の活性化。</li> <li>・教材研究の重視。</li> <li>・長期休業中に2回の職員研修の実施。</li> <li>・会議の効率化、金曜日に15分間のOJT実施。</li> <li>・副校長による教職員全体の服務研修。</li> </ul>
評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫	小中一貫教育の取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人のよさを見付け、よさを伸ばすことで他の力を伸ばす評価計画、評価規準、評価基準の作成等による指導と評価の一体化。</li> <li>・自己評価、相互評価の活用。</li> <li>・積極的な教職員同士の情報交換。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的生活習慣の確立（朝食・睡眠等）。</li> <li>・「早寝・早起き・朝ごはん」の運動の推進。</li> <li>・保護者による朝の読み聞かせ。</li> <li>・家庭学習や宿題等の工夫。</li> <li>・地域の教育力の活用。（地域未来塾）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8つの研究部会での小中一貫教育の研究実践。</li> <li>・課題改善カリキュラムの作成。</li> <li>・校区别協議会での協議内容を授業改善に活用。</li> <li>・中学校教諭による6年生への訪問授業の取組。</li> <li>・中学校の部活動見学（6年生）。</li> <li>・校内での挨拶運動、中学校との挨拶運動。</li> <li>・児童会生徒会交流（挨拶・サミット）</li> </ul>

授業改善策の検証方法	
○東京都や国による学力調査の結果と授業改善推進プランとのPDCAサイクルによる検証	○東京ベーシックドリルによる検証
○小中一貫教育グループによる課題改善カリキュラムと校区别協議会でのPDCAサイクルによる検証	○学校評価による検証